

原子力防災訓練 初の宮津市実施 京都

2013.3.17 02:16

関西電力高浜原発（福井県高浜町）での事故発生を想定した府と宮津市の原子力防災合同訓練が16日、同市由良地区で行われた。府は同様の訓練を舞鶴市などで行ってきたが、原発事故対策が義務づけられる「緊急防護措置区域」（UPZ）に宮津市が含まれたことから、同市で初めて実施した。

訓練は福井県沖を震源とした震度6弱の地震により、高浜原発が全電源と原子炉冷却機能を喪失し、放射性物質が拡散したとの想定で実施。同原発から約20キロと、市内で最も近接する下石浦と上石浦の両自治会（48世帯・114人）の住民が乗用車などで市外避難先に見立てた市立由良小学校（由良）に避難した。

住民は午前9時40分ごろから避難を開始。同小グラウンドでは防護服を着た市職員らが測定器で体や衣服への放射性物質の付着を調べるスクリーニング検査を行い、高線量の被曝を受けた場合に行うシャワーによる除線作業が実演されると、多くの住民が真剣な表情で見入っていた。